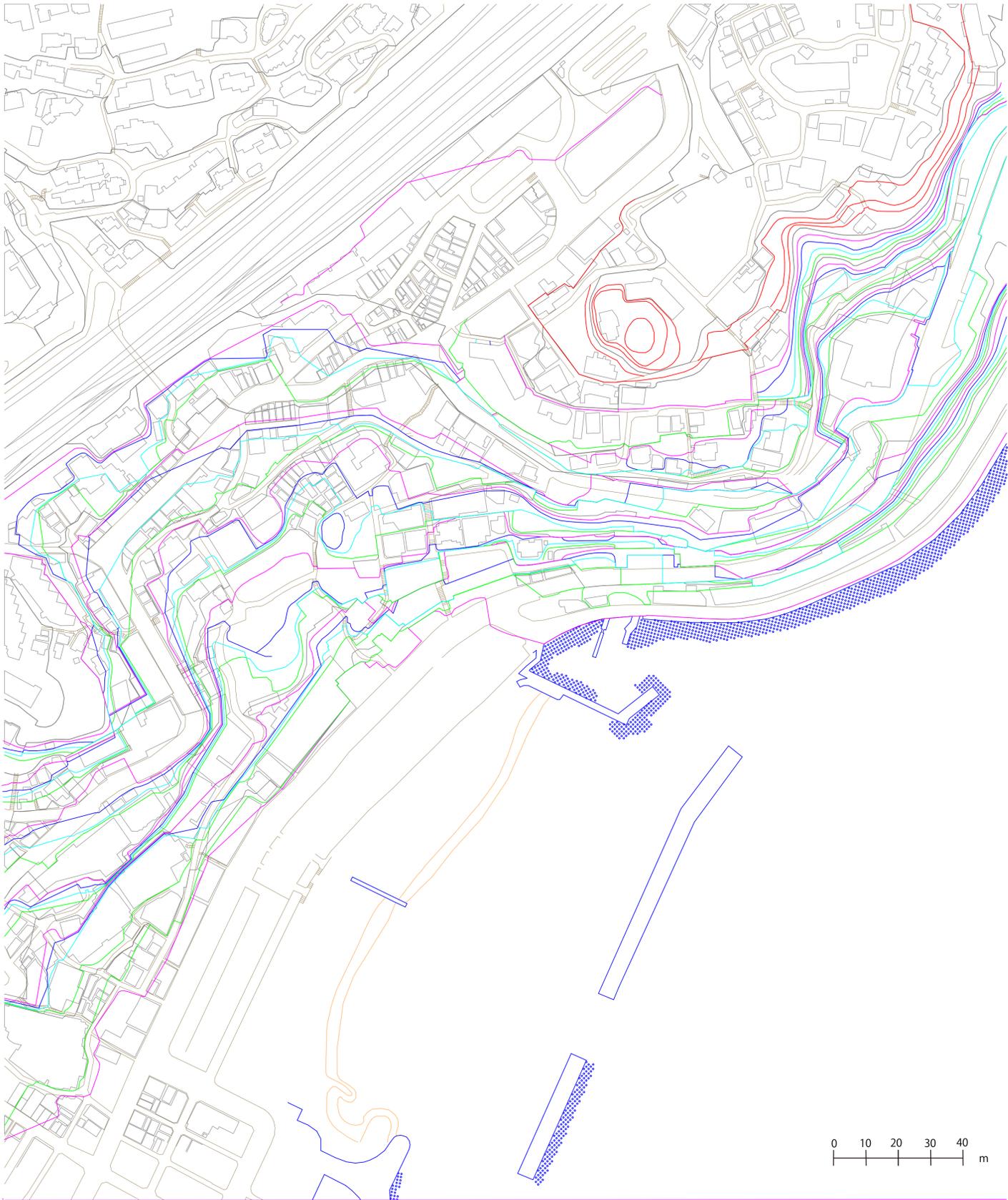


圖說第一卷老人生活





### 静岡県 熱海市について

熱海市は伊豆半島の東側付け根に位置し、市街地のほとんどが坂道や丘で、別荘や住宅なども高台の上に数多くある。道路は角度の大きい坂道となっている。熱海市は富士山脈の影響を受け、伊豆箱根温泉群の中心的存在で古くから、国際温泉文化都市として発展してきた。江戸時代には將軍徳川家に温泉を送っていた。また徳川家康が入った温泉があり出世の湯として知られている。昭和になりJR東海道本線が開通後、東京から保養客が押し寄せ、一大保養地に発展していった。だが、平成となり保養客が減少するにつれ、保養地が廃墟になっていった。

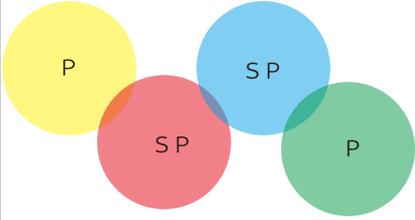
観光地であるため主要道路は車が多いが、一歩小道に入ると車はなく安全である。人と車の分離を行い、老人が歩きまわれる場所を確保する。

### コンセプト

# 徘徊→回遊

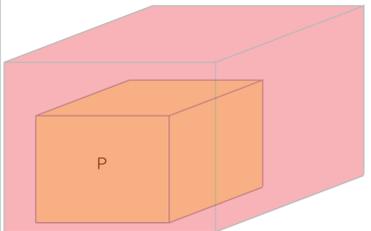
現在の老人ホームでは老人の活動範囲は非常に限られてしまっている。それにより老人はストレスを抱え施設内外を徘徊してしまう。なので私は住居をクラスター型に配置することに老人が散策できるそれぞれ異なった空間を作り出し回遊させることをしたい。

### ダイアグラム



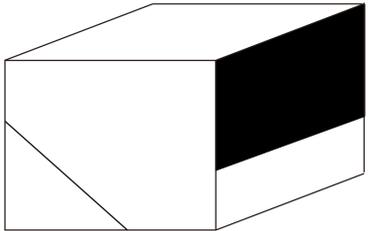
P: プライベート  
 SP: セミプライベート  
 SP: セミパブリック  
 P: パブリック

私たちが住んでいる住居にはセミプライベートな空間はあまり存在しない。老人ホームでこのセミプライベートな空間を構成することにより老人は、数字や色などの目印 目印として自分の家具や趣味を目印とし、自らセミパブリックな空間やパブリックな空間から戻ってこれるのではないかな。

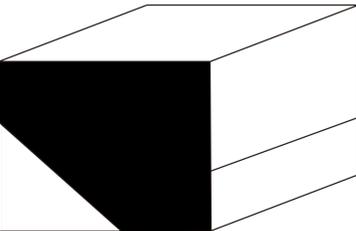


- ・ボックス・イン・ボックス
- ・内側ボックス(プライベート)・・・内側のボックスには主に寝室やトイレなどのプライベートな空間を構成する。
- ・外側ボックス(セミプライベート)・・・外側のボックスでは主に開放的な空間を与え、老人が食事やレクチャーなどのSP(セミパブリック)空間やP(パブリック)空間に移動した時でもその家具が目印となり、再びそこに戻ってこられるようになる。

- ・2・・・視線を遮る開口部

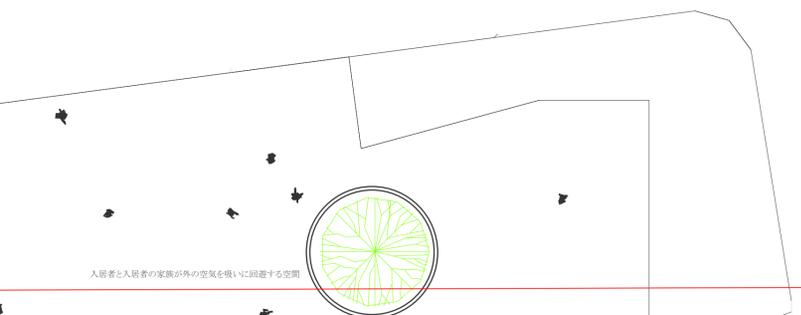


老人や車椅子の空間のコミュニティを作り出す。  
 健常者の目線の高さは 1550mm  
 老人の目線の高さは 1400mm  
 車椅子の老人高さは 1150mm  
 介護者の視線の高さは 1550mmであるが老人や車椅子のそれよりも低い。  
 このことを利用して老人や車椅子の人たちだけが見ることのできる空間を構成しコミュニティを形成する要因を作る。



老人は目がとても弱く、直射日光などの強い光やグレアなどがいきなり目に入り込むと、とても不快に感じることもある。そのため直接日光を浴びるのではなく斜めの壁により徐々に光を感じられ、柔らかくに光をつないでいく。



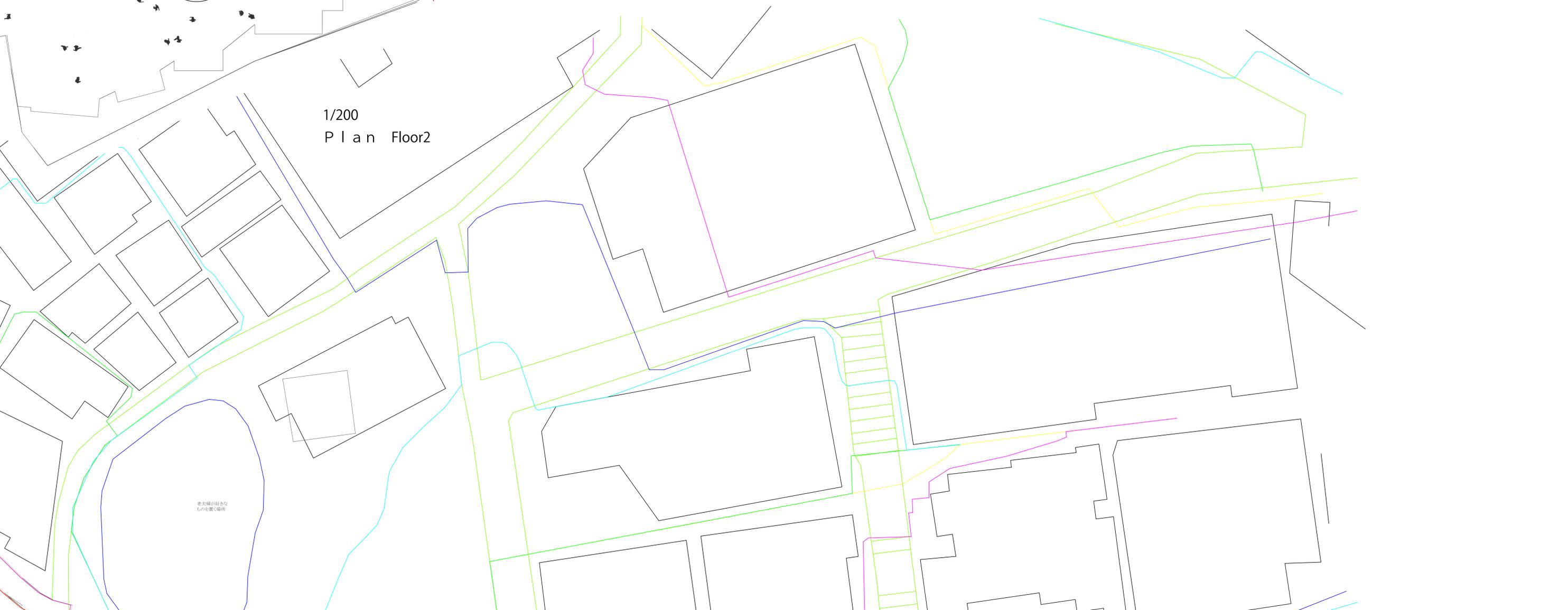


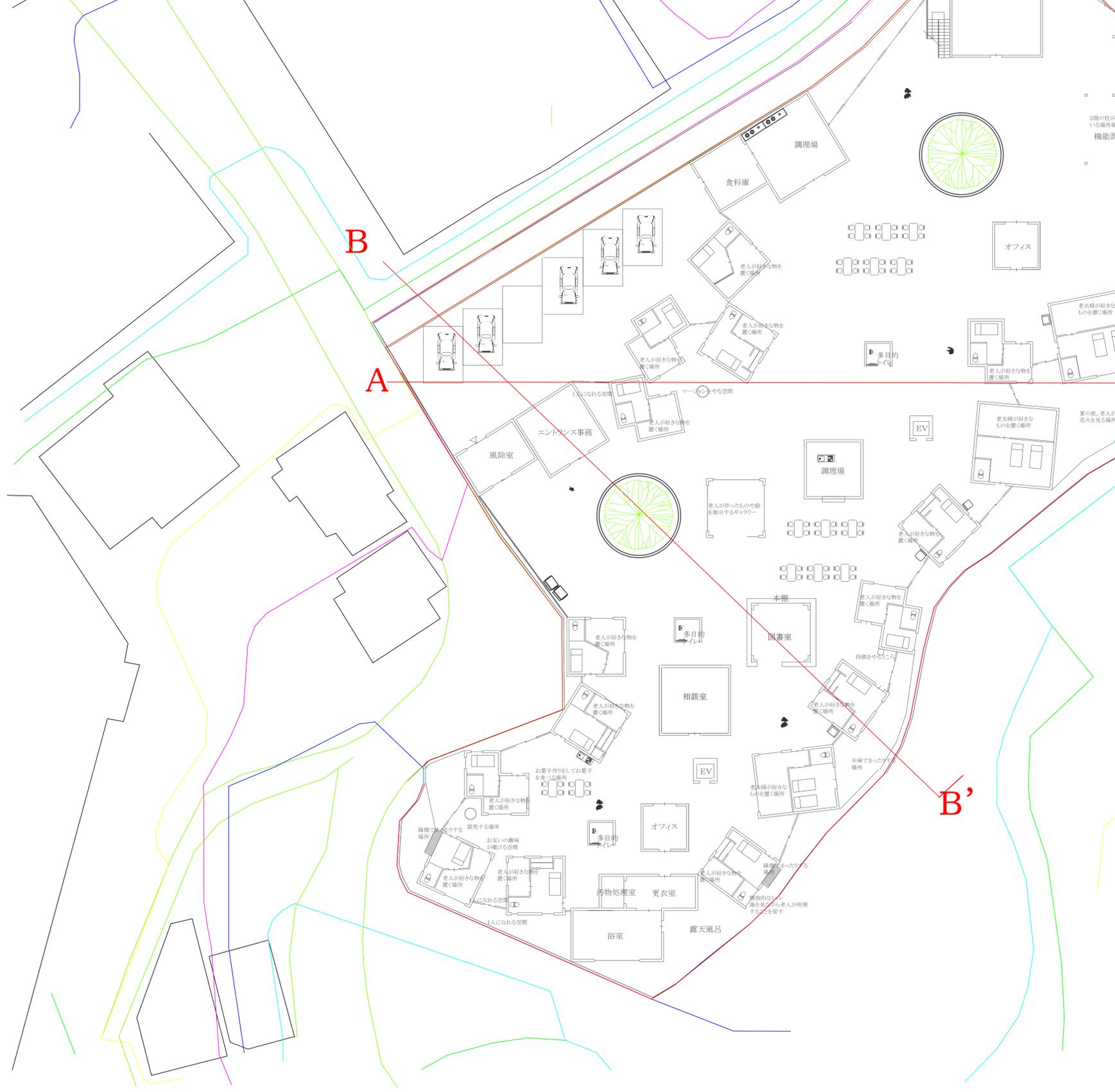
入居者と入居者の家族が外の空気を頼りに回遊する空間

A'

1/200  
P l a n Floor2

老夫婦が好きな  
ものを置く場所

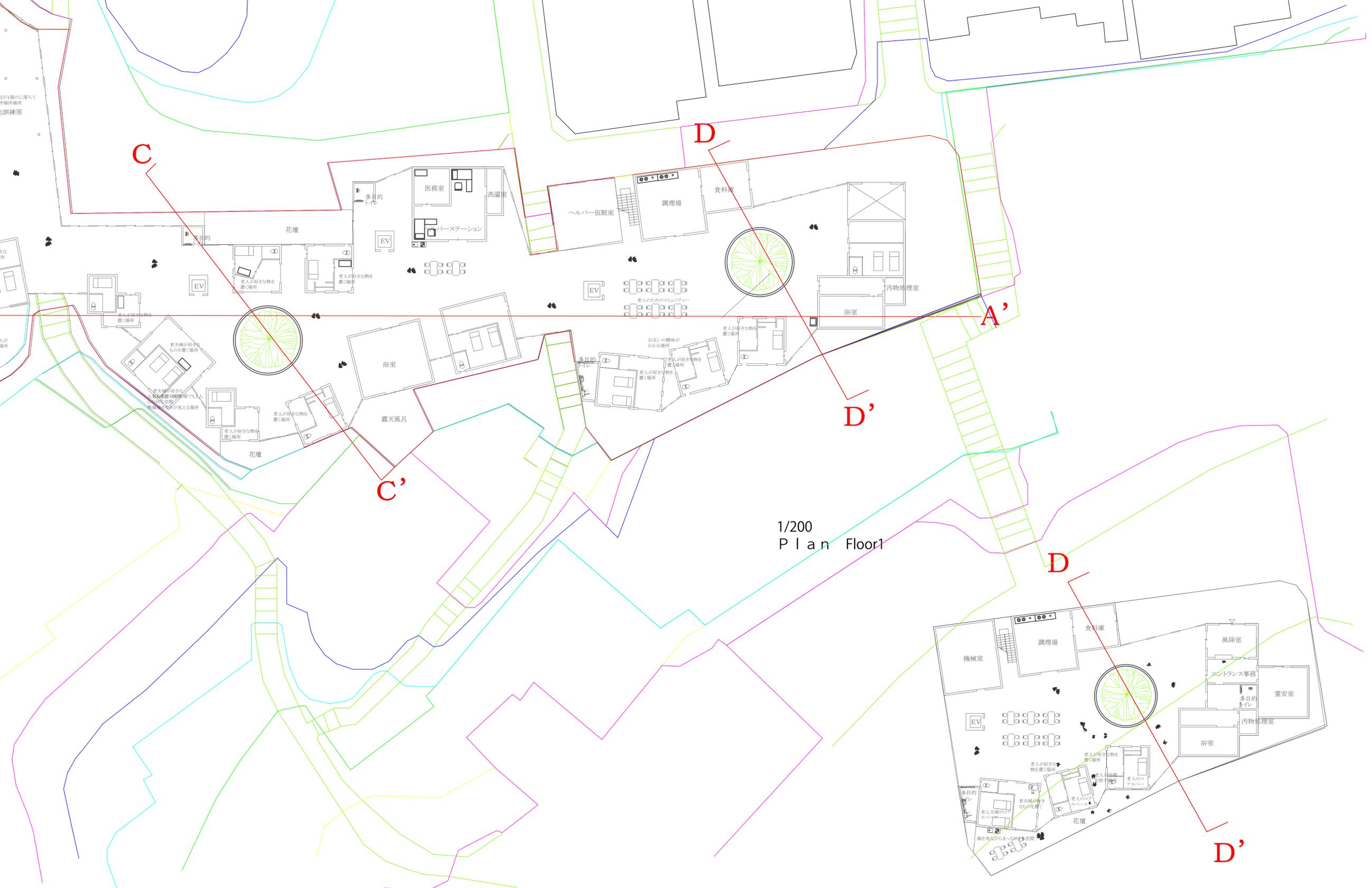




2階の柱が  
いる場所  
機能部

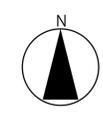
夏の夜、老人が  
花火を見る場所

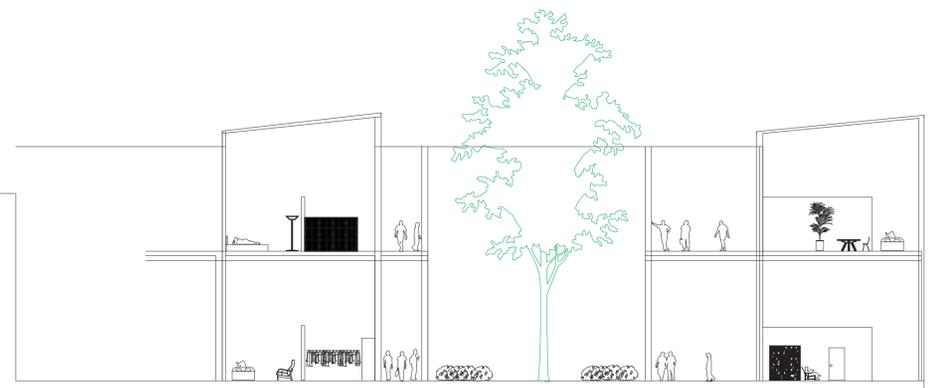
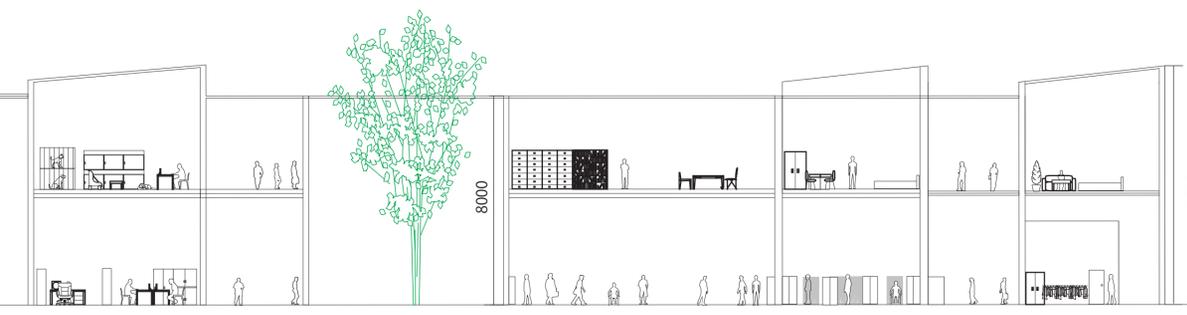
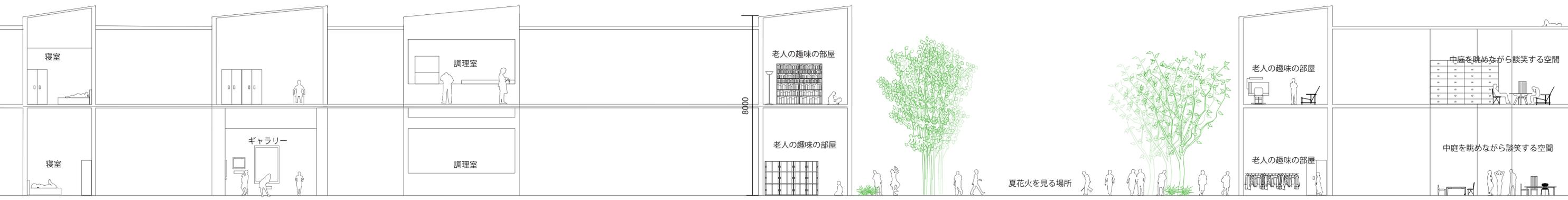
録音でまったりする  
場所

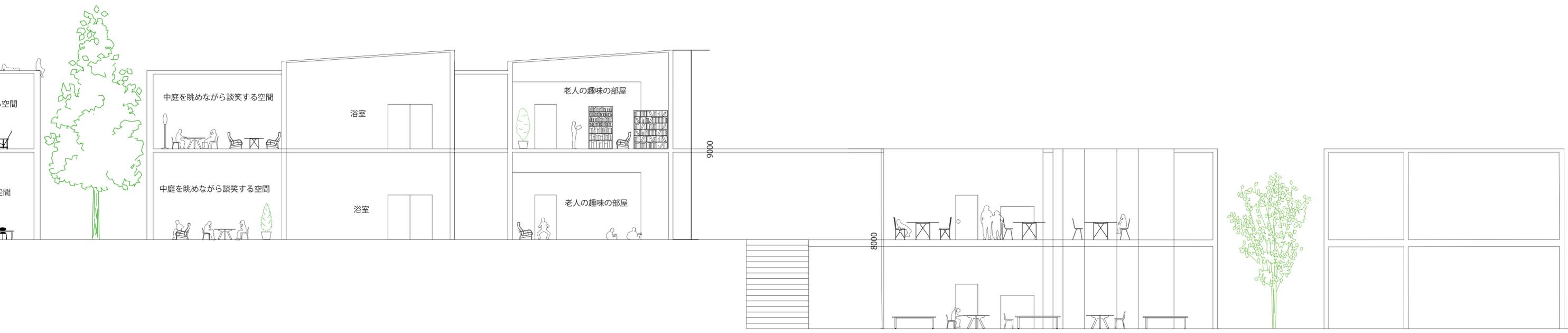


1/200  
P l a n Floor1

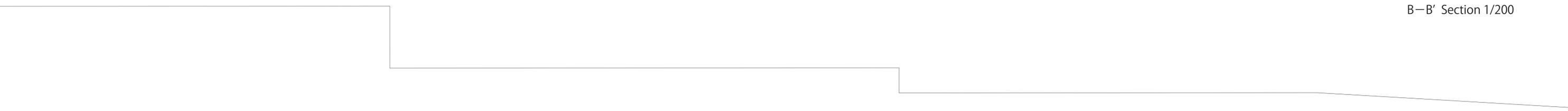
1/200  
P l a n B1





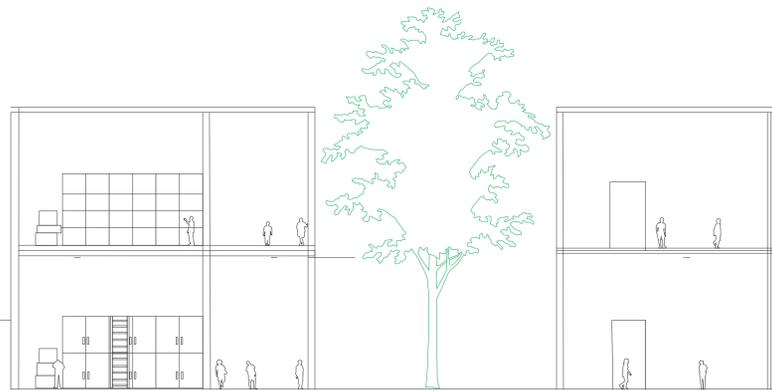


A - A' Section 1/200



B - B' Section 1/200

C—C' Section 1/200



D—D' Section 1/200



老人同士のコミュニティ



憩いの集合場所



車イスの空間



光の方へ